別海町立西春別小学校　学校だより

か　ら　ま　つ　　No. 13

平成２８年１１月１５日発行　　発行責任者　校長　野口　泰秀

保育園のお遊戯会から学ぶ

校長　野　口　泰　秀

１１月３日と１２日は、ＰＴＡ文化部によるパンづくりが行われました。また、１１月２０日はＰＴＡ親子レクが予定されています。お忙しい中、ＰＴＡの皆様には子どもたちのために様々な取り組みをしていただき本当に感謝しております。ＰＴＡの活動が活発になると、家庭と学校の連携もより密になります。今後もよろしくお願い申し上げます。

さて、今年も保育園からのご招待を受け、１１月１２日にお遊戯会を拝見しました。昨年まではみらい館で実施しておりましたが、今年は保育園の遊戯室でした。一つのことを変えるときには、体力的にも精神的にも多くの負担がかかるものです。園長先生はじめ職員の皆様には、華やかな舞台の裏で多くのご苦労があったのだろうと思います。

演目はどれも素晴らしく、その年齢に応じた内容が工夫されていたことに、まず、感心いたしました。また、保育園の取り組みが小学校につながるものを以下のように見ることができました。

①小学校では、全校朝会や集会活動の中でノーペーパーによる発表場面を全員が経験できるようにし、表現力の育成を図っています。お遊戯会では、ちゅうりっぷ・さくら組さんだけではなく、たんぽぽ組さんまでもがノーペーパーで挨拶している姿につながりを感じました。
②歌や楽器では、先生の合図で楽器を構えることができていました。このことは、集中力と意欲を高めるものであり、小学校で大切にしている心構えをもつことにつながります。
③子どもたちが歌っている姿を見ながら、しっかり口をあけて歌うように歌唱指導がなされているのだろうと思いました。口をしっかりとあける指導は、歌唱だけではなく音読など正しい発音で読むことにもつながります。
④平均台・跳び箱・鉄棒など器械を使った体操表現は、運動に親しむ心を育む上で、小学校の学習内容につながります。また、幼児のうちからこのような表現活動を行うことで体の調整力を高めていくものだと思いました。

年長のさくら組さんは、すっかりお兄さん、お姉さんでした。たくさんのことを学ばせていただくお遊戯会でした。さて、小学校というのは、ついつい入学当初の１年生を赤ちゃん扱いしてしまったり、逆に慣れない小学校のリズムに無理にあわせようとしたりする中で、保育園での学びを生かせないことがあります。今年は、保育園さんと合同で避難訓練を実施したり、クロスカントリー大会を見に来ていただいたりするなど保小での取り組みが少しずつ進んでいると思います。

現在の保育園でのお子さんの様子を受け止め、小学校生活にスムーズにつながるようにスタートカリキュラムを活用するなど今後も保育園との行き来をさせていただきながら、子どもたちのより良い成長に向けて方向性を見出せたらと思います。